

LAC Newsletter 国際教養コースだより No.7

Hyogo Prefectural Takarazuka Nishi Senior High School

December 22nd, 2017

☆ 12月15日(金) LAC 1年生が宝塚第一小学校5年生に英語出前授業を実施



・初めて小学校に行って授業をしてみるととにかく楽しかったです。始まってすぐは間違ったらどうしようとか考えていなくて、なかなか楽しめなかったのですが、名刺交換の時、自分から笑顔でいようにすると、周りの皆もそれに答えてくれてうれしかったです。やはり人をまとめることはとても難しいし、7人いても伝えるのが大変で、先生はすごいと改めて感じました。ミスをしたとき友達がフォローしてくれてとても助かりました。より団結力が高まったと思います。(S)

・初めは正直言ってとても不安だらけで緊張して心配でした。小学校に着いてからも、廊下で待機していてもドキドキしていました。でも私のグループは、日に日にうまくなっているし、できる！と思いました。教室に入ってから、みんなかわいくて、ノリに乗ってくれるし、授業が楽しくなりました。一番びっくりしたことはみんな発音できていたことです。理解も早くとても楽しい時間が過ごせました。みんな笑顔で良かったです。小学校の先生もありかも！?(K)

・練習し始めたときは本当にグダグダで通しでもスムーズに進んだことはなく、不安なまま本番を迎えたいけれど、班の全員が練習以上の力を出せて、子どもたちと良い交流ができたと思います。私はふだんから人前で話すことは得意ではないけれど、今日の経験を思い出して、これから積極的に英語を使ってスキルアップしていきたいです。(K)

☆ 12月18日(月) LAC特別講座(2年7組LAC生徒対象)

現役で活躍中の証券アナリスト(みずほ証券株式会社エクイティ調査部 Global Head of Technology Research Senior Analyst) 中根 康夫氏に興味深い講義をしていただきました。内容は、「証券アナリストの仕事とは何か」、「海外勤務の経験から学んだ日本・アジア・欧米の人々の仕事に対する考え方の違い」、「独自の語学習得法」など幅広く、海外の仕事や起業に関心を持つ生徒にとって大変刺激となるものでした。2名の感想を紹介します。

・今日のお話を聴いて、証券アナリストの仕事にとっても興味を持ちました。講座の前に、証券アナリストと聞いて、「株関係のことかな」としか思っていませんでした。しかし、中根先生は、日本人と外国人の考え方の違いなどで、面白く話をしてくれて説得力がありました。「相手を尊重しながら自分の意見を言う」ことが大切であることも教えていただき、とても勉強になりました。一度外国に行ってみようと思いました。

先生の発音の練習は、学校でも教えてくれないような実践的なもので、分かりやすかったです。海外で活躍している人の目は、とてもキラキラしていてかっこいいと思いました。今までたくさんの実体験に基づいた話を聞いてきましたが、中根先生は、私たちの方が楽になるような感じで話してくれて、い

ろいろな人の話も親身になって聞いてくださいました。時間がとても短く感じられました。(M)

・中根さんがおっしゃっていた「専門性」は1つでも持っていると役に立つのだと思いました。でも、それは他の人よりもずば抜けていないといけないから、すぐに身に付けられるものではないと思います。中根さんの強みは、台湾に勤務して、中国語が話せるようになったということだとおっしゃっていました。やっぱり英語を話せるとどこの国でも通じるけれど、その国に言語を勉強して話す方がより親近感がもてるし、その努力を中根さんはしたから今の強みになっているのだと思いました。

また、欧米人と日本人の違いも知ることができました。欧米人はディベートやディスカッションに慣れており、人の意見をそのまま聞く人は少なく、自分の分からないことを恥だと思っていなくて、自分の意見を言う人が多いとおっしゃっていました。だから率直に自分の意見を言っても怒る人は少ないそうです。そういう力が日本人に足りないと思いました。(H)



☆ 12月14日(木) 第3回LAC講座 (1, 2年LAC生徒対象)

立命館大学の国際関係学部のクロス京子准教授に「平和とは何か」をテーマに大学模擬授業の講義をして頂き、専門的な学びの入口に立って、じっくり考える貴重な時間になりました。

・主題に入る前にキーワードの説明が入っていて分かりやすかったです。講義の内容のテーマから難しい話になると考えていましたが、多くの具体例や問題、説明を織り交ぜて私たち高校生に対しても比較的わかりやすかったと思います。私はこの講義を受けるまで「平和」を狭い視野で考えていました。平和の反対は「憎しみ」だと思っていました。直接的暴力、間接的暴力、文化的暴力などという考えは単純な感情論だけではない複雑な問題だと感じました。このような問題を解決するのは恐らく不可能に近いだろうと思いますが、不可能だからということをおまぬに自分自身の暴力を正当化することは愚かなことだと思うので、人道的な優しさを忘れずに生きていこうと思いました。(2年S)

・今回の講義で、「なぜ私たちが英語を学ぶのか」「国同士で大切なこと」などを知ることができました。世界の国の数は196か国だと思っていましたが、実際には独立を目指す地域であっても国として認められない状況があることに驚きました。(略) 国家になるための三か条である領土・国民・主権を満たしている地域でも国連加盟が認められていない国があることも知りました。(略) 平和とは何かを考える上で、直接的暴力、文化的暴力、構造的暴力が平和を阻むことを学びました。私は戦争がないことが平和だと思っていましたが、戦争がない場合でも差別などの大きな壁が平和への道を塞いでいて多くの方が苦しい思いをしています。発展途上国では女性差別が多く、またどこの国でも人種(民族)差別があります。女性差別は日本にもあるので完全に平和とは言いきれないと思いました。また、国籍のない人が難民キャンプで暮らしている写真を見てその残酷さを知りました。コロナなどを難民同士で取り合っている状況を見て、私の日常はとても贅沢をしまっていると思いました。エボラ出血熱が大流行した原因がグローバル化や貧困や自由市場経済が関わっていると聞きとても怖くなりました。グローバル化は良いことだけではなく、小さいことでも大きな問題を起こすことを知ることができました。(2年S)

・今日の講義で「平和」に対する考えががらりと変わりました。これまで単に戦争がないことを平和、平和の反対は戦争だと思っていました。確かに、戦争がないからと言って平和なわけではないと思いました。平和の定義は「暴力」がない状況ということを知りました。そういう考えると、日本は平和と断言することもできないし、完璧に平和と言い切れる国はないんじゃないかと思いました。国際関係というスケールが大きいと考えてしまいがちですが、実は自分たちが根本的に関わっているのだと思いました。将来いろいろな国と関わっていきたくて考えているので、今回の講義を忘れないようにしようと思いました。(2年 A)

・「戦争がなければ平和なのか」と考えたとき、そういうわけではないということがわかりました。文化的、構造的暴力という不可視の暴力、直接的暴力(可視)があることで平和ではないということがわかり、世界が平和になることはないんだろうかと思いました。外国ではいろいろな人が差別されて苦しんでいます。人は差別することで自分が誰かの上に立って自分自身を守っています。世界にはたくさんの人種、様々な考え方をしている人はいます。「こうなることが平和である」と定義するのに、全員が同じになるはずがない。だから全員が幸せとなることはないと思います。誰かの幸せには誰かの犠牲が必要で、その結果、今のこの世界のようになってしまったのでしょうか。私は今幸せです。今の日本は犯罪があっても大きな戦争はありません。しかし私の幸せの裏で誰かが苦しんでいるのだろうと思うと悲しくなります。「平和」「幸せ」というのは私一人でどうこうできる問題ではありません。私に何ができるのかと考えたとき、まず無意識にでも差別することはやめようと思いました。(2年 T)

・国家というものにしっかりと定義・条件があり、全ての国が国家なわけではなく、捉え方によって数が変わるというのに驚きました。明確な領域・永続的な領土・主権、国家の条件は難しく人によって捉え方が変わってしまうのも仕方ないと思いました。「平和」は形のないものだと思っていたけれど、定義があることを知ってよかったです。戦争がないだけでは平和とは言えないと思うので、その定義に納得がいきませんでした。直接的暴力が身体的暴力で、間接的暴力が言語的暴力のことだと思っていたのですが、正当化する態度や考えなども暴力に入ると聞いて驚き、そういった考えを持っていることも十分暴力に値するのだと思いました。武力紛争がなくならないのは一度紛争をやめさせても根本的解決にならないということはその通りだと思いました。世界では常にいろいろなことが起こっていて、全てのことに対処していくのは難しいことです。大学ではたくさんの方が学べて、未来へ役立てていけるというのがわかってよかったです。これから戦争も暴力もない真の平和な世界になったらいいと思います。(1年 K)

・最初の国家のお話から驚くような情報ばかりで興味深かったです。国家の数え方も私は深く考えずに195と考えていましたが、様々な事情から数え方もたくさんあると思いました。「平和」という言葉についてこんなに深く考えたのは初めてで、私は平和=戦争のない状態と考えていたけれど、それだけではないことを知りました。戦争がなくても平和であるとは言えない国もたくさんあると思いました。また、「暴力」にもたくさん種類があり、目に見えない暴力というのは、誰にどのようになされているのかわからないので、いつの間にか大きなことになったりするのは大変なことだと思いました。一番印象に残ったのはロヒンギャ問題についてです。宗教による迫害も、女性だからという差別の問題なども抱えていて、解決するのは難しそうだと思います。感染症が広がったときの援助をする政治家を選ぶのは私たち自身なので、選挙には必ずいこうと思いました。私たちは関係のない遠い国の話ではなく、私たちにも関係していることも多いので、世界にも目を向けていきたいと思います。(1年 H)

・少子高齢社会の中で、若者が今の環境に対して文句や不平を言ったりするのは自分たちが動いていないからではないかと思います。自分たちの将来がかかっているのだから政治に関する投票なども若い人たちこそが行くべきだと思います。また、難民の原因になるようなシステムがあるからこそ戦争になったりするというのを聞き、そのシステムという言葉に興味を持ちました。世界では白人と黒人の人種差別がありますが、それも別に黒人が悪いという根拠も白人の方が賢いという理由もない。何が基準でそのような差別が生まれるのかわかりません。また、難民がたくさん発生するのはよくないことだけれど、受け入れてくれる国があってもそこでまた仕事を探すのが難しい。なぜならもとから住んでいた国民の仕事が減って給料も減るから。そこでまた文句を言う人がでてきて、かといって元いた人たちにだけ多くのお金を払うことをすれば差が生

まれてしまう。難民になってしまった人たちはどこへいけばよいのだろうか。世界にはもっとたくさん問題があって簡単なことと思ってもなかなか平和に近づくのは大変です。私ができることが何であるか知りた
いと思いました。(1年S)



